

2012年の戦略

県内経営トップに聞く

第一貨物(山形市)

⑧

武藤 幸規社長



自社の目標・展望を漢字1字で表すと…

克

「2012年だけではなく、将来、起こるであろうさまざまな経済的、社会的出来事を乗り越えていくということ。創立70年を迎えたが、次の70年、さらにその先に向けて克服していく、絶対に負けないという意味での『かつ』だ。持続的経営にもつながっていく」

効率化進め 競争力養う

東日本震災では物流の重要性が再認識された。燃料不足により受託拒否する会社もあつたが、われわれの使命は物を輸送すること。一滴でも燃料がある限り目の前の顧客のニーズに応える姿勢で対応した。東京を中継拠点とし、関西からのトラックは燃料を満タンにして東京に荷物を運ばせ、帰る分以外の燃料を東京に蓄え、東北からトラックにその燃料を回す方法で乗り切った。2011年上半期は当初、相当低迷すると思われたが、予想外によかった。プラスになった理由の一部には、震災時の当社の対応を評価してくれた顧客の動向がある。震災後、東北の物流は大きく変わったか。どう変わったか。

「11年4～11月の統計で東北全体では出ていく荷物（発送）は前年比99・1%と減ったが、入ってくる荷物（到着）は104・4%と増えた。岩手県は発送が95・9%、宮城県は発送が95・8%、到着が104・7%。本県は発送が101・1%、到着が101・7%。支援物資や生活再建に必要な家電、食器、衣料が動いたため東北の物流量は多かった。しかし、お盆以降、（被災地を除く）地上デジタル放送への完全移行後の販売不振などの影響で物流量が減っている」

「経営戦略で重要視するのは、強みになる。顧客の個別ニーズに可能な限り応えながら、汎用（はんよう）性を持って効率化を進め、市場競争力をつけていく。顧客第一主義の徹底も重要。顧客第一主義を当社の企業文化にまで高めることが必要だ」

「差別化を相当意識している。運送業界には事故のリスクや経費の問題から自社でトラックや運転手を持たずに外注する流れがあるが、当社は自社でのトラック運送の方向性を鮮明に打ち出している。少子高齢化でドライバー不足が現実的になった時、いかに輸送力を持つていくかが決め手になる。企業の持続設計を常に考えている。その根本が人材育成。社内教育制度を設けて次世代の経営者を育てたり、現場系の教育にも力を入れている。人への投資は必ず成果がある。トラック輸送だけでなく、航空輸送も倉庫も」と、『物流』に関連する部分を一括で外注する企業が増えている。トラック輸送市場の数倍規模となっており、当社もこの分野での事業拡大を強化する」

「物流」の一括受注分野も強化

「競争激化の中での生き残り策は。」「差別化を相当意識している。運送業界には事故のリスクや経費の問題から自社でトラックや運転手を持たずに外注する流れがあるが、当社は自社でのトラック運送の方向性を鮮明に打ち出している。少子高齢化でドライバー不足が現実的になった時、いかに輸送力を持つていくかが決め手になる。企業の持続設計を常に考えている。その根本が人材育成。社内教育制度を設けて次世代の経営者を育てたり、現場系の教育にも力を入れている。人への投資は必ず成果がある。トラック輸送だけでなく、航空輸送も倉庫も」と、『物流』に関連する部分を一括で外注する企業が増えている。トラック輸送市場の数倍規模となっており、当社もこの分野での事業拡大を強化する」